

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で当たり前にも暮らす・人間の尊厳を大切に」を理念に掲げ、自治会の行事や散歩や買い物など、出来るだけ入居者様に地域に出て頂ける機会を作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事等に参加させてもらっているが、今年度は、インフルエンザの流行もあって、参加回数、人数も少なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、管理者、副主任は、市の認知症コーディネーター養成に参加し、現在、他の事業所と取り組んでいる最中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、評価の報告や、実際の取り組み内容等を伝えたり、入居者の日頃の様子も伝える。また、家族より意見が出やすいように、グループに別れ、意見交換をしたりした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所での会議や勉強会に参加するとともに、電話連絡だけでなく、必要に応じて市町村担当者へ足を運び、直接、意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関は、オートロックになっているが、他の所から自由に外出できる様にはなっている。また、身体拘束の禁止についても、その都度、資料や会議にて身体拘束について説明し、周知する様になっている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やユニット会議にて、説明を行っている。新聞や情報などが入れば、その都度、回覧し、掲示している。また、現場の職員の対応なども、常勤が見直し、ユニット会議にて話し合っている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで知る機会は得ている。個々の必要性に対しては、上司とも話し合いながら、手続きをされている方については、経過の報告等もしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その際にも、家族様に尋ねている。それまでも、契約締結や解除前にも、家族様との話し合う機会を、必要に応じて作っている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、各階と意見箱は設置している。また、家族より、意見や要望が聞く事が出来た時は、随時、記録に残し、上司に報告、相談させてもらい、早急に対応出来るように努めている。		
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	4ヶ月に1回の、面談を行っている。それ以外でも、出来るだけ、日々、上司から声をかける様にし、話すきっかけ作りを意識して取り組んでいる。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、人事考課を行い、職員の仕事や意欲などを評価している。また、給料やボーナスなどは、人事考課が反映されている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加させてもらい、その研修で知り得た方法を、ユニット会議などで、他の職員に伝え、現場で取り入れている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム交流会を通じ、他のグループホームの方達とも意見の交換が出来る場がある。他事業所の行事にも参加している。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面接等で、出来るだけ詳しく、情報や、希望、不安等を聞き取り、その為の環境、及び、関係作りに努めている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面接等で、出来るだけ詳しく、情報や、希望、不安等を聞き取り、その為の環境、及び、関係作りに努めている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、契約時に情報を得た上で、上司のアドバイスを頂きながら現場と検討している。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多忙な時は、職員が中心となっているが、個人の得意とする事については、職員が間に入り、他の人とその人と一緒にできる様にしている。	
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を報告する中で、知り得た本人の思いを伝える様にしている。また、家族から伺った、家族の想いを大切に、本人と生活を共にし、新人職員には、折に触れ家族や本人の想いを伝える様にしている。	
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰って庭の手入れをしながら、家族様にも、馴染みの場所や人を聞き、情報収集にも努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係の把握は、出来ているが、性格、認知度や生活環境からの違いで生じた摩擦を取り除けるまでに至っていない。また、そうなる前に、取り持つ事も出来ていなかった。今後の大きな課題の一つでもある。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際、出来ていない。関係施設に入所された時は、話せる場面もあるが支援までは、出来ていない。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は、関わりの中で聞くようにしている。困難な場合は、話し掛けの中から、職員の主観でなく、本人の思いを汲み取れるようにしている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用の開始時の面談時や、センター方式を利用し、家族に話の聞き取りをしている。また、日々の中で知り得た事は、随時、記録する様になっている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の、身心状態などは、日誌や申し送り等により全職員が周知出来るようにしている。能力については、維持できるように、変化があれば、家族や職員と話し合いをするようにしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のケアカンファレンスを行なっている。それまでに、家族の意向や思いも聞かせてもらいながら、また、本人にも思いを聞けるようにし、作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の徹底をするように指導してはいるが、職員の理解度や考え方、また、記録の仕方や、記録に有する時間などで、まだまだ、出ていない。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本部で行っている陶芸教室に通ったり、小規模多機能ホームにいる犬を借りに行く事がある。1階のデイサービスのお風呂や運動器具なども、利用している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある店や公園や施設などを把握し、個々に応じて利用する様になっている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が主となっているが、本人や家族の希望、既往歴に応じ、かかりつけ医を選んでもらっている。また、適時、受診できる様、可能な範囲で、送迎、付き添いを行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日曜日以外は、デイの看護師が定時に回り、気付いた事などを報告し診てもらっている。また、必要な時には、随時、診てもらい、指示を仰げるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	上司より病院関係者との連携、情報交換をしている。家族には上司、現場より連携、情報交換、相談し安心して治療して頂ける様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、体調の変化が生じたりした時等に希望などは聞く様にしている。急激にADLが低下し改善の見込みがない場合、上司と相談した上で、家族、主治医、看護師と相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の体調の変化等があった時は、再度、伝える様にしている。また、救急対応やAEDの使い方などは、講習等の参加もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で非難方法など再確認し、消火器の場所や使い方も訓練されている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねないように、また、ゆっくりとした口調で、一つ一つ伝える様に指導しているが、徹底できていない。同年代の話口調になっている事が多い。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で、本人の思いや希望を知る様に、また、自己決定できるように、ゆっくりと会話する事、また、思いを聞き出す様に、心掛けている。		
38	15	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の動きに合わせてしまっている事が多い。入居者のペースを大切にし、その時の心身の状態は、どうなのかも踏まえ希望に添える様にして行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体温保持の為、好みではない衣類を身に付けてしまっている事がある。理・美容については、外出が困難な方には、訪問理容を利用している。また、曜日を決めて、お化粧品などもしている。		
40	16	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る時等に、全てではないが、入居者の食べたい物、食材をどう料理していたかを聞きながらメニュー作りをしている。また、調理、片付け時にも、入居者と一緒にするようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	献立は、職員が1ヶ月単位で作成し、メニューの重複が無いように心掛けている。また、法人内の栄養士にも見てもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度、訪問歯科を受け、医師の指示の元、ケアを行っている。咀嚼や口腔内の変化があれば、報告、相談している。		

43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人の排泄リズムをつかみ、定期的に排泄誘導をしている。また、表情や行動等からも、声を掛けさせてもらっている。その事に、気付けた職員は、他の職員にも伝え、不快な思いを出来るだけされない様になっている。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>野菜を中心に献立を立てている。便意がなくなってきた方については、薬を使用し便秘のないようにしている。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>11時から20時まで、入浴出来る様になっている。日中の話の中で、入浴をする気分となった時に、お誘いし入浴してもらっている。</p>		
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>睡眠が短かったり、浅かったりした時には、日中でも休息を促したりしている。また、夜間に不安になった時などは、ゆっくり話を聞き、安心して入眠してもらえるようにしている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>フェイスシートや薬セット確認表と服用薬について知る機会が多い。また、変更等があれば、ケース、連絡ノートに記入し状態の変化があれば記入していく様にしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に合わせ、本人の得意な事、楽しみの中から、出来る範囲の役割分担をし支援をしている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散髪、散歩など、希望があれば外出できる様になっている。今年度は、インフルエンザの影響で極端に少なくなってしまった。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ユニットの中に半数以上の方が、お金を持っている。本人の思いの中で、食品であったり、雑貨であったりと購入する為、一緒に外出している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀を出したり、不安な時は、家族の声を聴けるようにしている。筆記に不安がある時は、職員も一緒にする様にしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々の花を飾ったりしながら、季節感を取り入れて行きたい。採光については、カーテン等を利用している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファ等を利用し、本人の思いにより居心地の良い場所で過ごせる様にしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族に、お願いし出来るだけ本人が利用していた物を持って来て頂く様にし、搬送については、職員も協力している。しかし、諸事情により、ほんの一部でしかなく、少し殺風景になっていると思う</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全が重視され、自立した生活場面が作れていないと思う。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない